



真庭市立月田小学校 学校だより

大門坂



雪の大門坂

学び続け、豊かな心を持ち、
たくましく生きる子どもの育成

第17号

令和2年 3月 2日

校長 清友 尚 発行

月田小学校 検索 ←

月田奨学会 文科学大臣表彰祝賀会

2月16日（日）には、真庭市太田市長様をはじめご来賓の皆様、50余名の関係の皆様に参加をいただき、月田奨学会令和元年度優良PTA文部科学大臣表彰祝賀会を盛大に開催することができました。

この表彰の趣旨には、「PTAの本来の目的・性格に照らし、優秀な実績を上げているPTAを表彰し、PTAの健全な育成・発展に資することを目的とする」とあります。全国のPTAは戦後組織されたものですが、月田奨学会は、昭和2年（1927年）に設立され、90余年の歴史を刻んでまいりました。当日その歩みをまとめた映像を会場で流しましたが、その時々にご尽力くださった多くの先人の皆様に、改めて感謝申し上げます。

この日旧交を温めるご様子が随所に見られ、皆様に感謝いただけたことが何よりもありがたいことです。

早朝より準備して下さった奨学会役員の皆様、またご参加くださった多くの会員の皆様、大変ありがとうございました。



2/3 琴の指導

2月3日（月）、豊岡朗子さんにお出でいただき、今年度も琴の指導をしていただきました。5・6年生はそれぞれ2時間指導していただき、「さくら」の演奏ができるまで上達しました。5年生は1番だけ、6年生は昨年体験しただけあって、最後まで2部合奏を完成できました。2時間の集中的な練習で、雅な音色を奏でることができるようになりますのです。良い体験をさせていただいています。



2/5 百人一首・なわとび集会

1月25日（土）の学校公開日に予定していた百人一首・なわとび集会がインフルエンザ対応で延期されましたが、2月5日（水）にできました。百人一首では、グループに分かれて、札を取り合っていました。上の句を読んだ途端に「はい!」、実に高レベルな戦いを見ることができました。暗記した百人一首は、一生の財産になります。続くなわとび集会では、学年ごとの課題に挑戦した後、学年チームで8の字跳びの記録に挑戦しました。体育はもちろん、休み時間にも練習した成果が出ていました。この種目は岡山県チャレンジランキングで、他校とも競い合えるシステムがあります。



2/20 新1年生体験入学

2月20日（木）、月田保育園うめ組（年長組）さんの体験入学がありました。3校時に5年生と体育館でゲームで交流をした後、4校時は1年生との交流でした。

1年生との交流では、行事の紹介以外に1年生の学習内容について紹介したり、ひらがなや数の問題を出したり、一緒にゲームをしたりしました。1年生は、15人分の給食の準備をするのは大変だったようですが、給食も一緒に食べました。

5年生は最上級生へ、1年生は1つ先輩になる自覚が生まれたようです。

「小1プロブレム」といわれる問題があります。集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話を受けない等、学校生活に適應できないために起こす問題行動をいいます。入学直後、遊びから学びに生活の中心が変わり、幼児教育から小学校教育へ指導が一変する段差を乗り越えられないために起こる問題とされています。

そこで10年ほど前から、幼稚園や保育園と小学校の幼小連携を図るプログラムが導入されており、小学校入学前の幼稚園や保育園

の園児を対象に、決まった席に座っていることや読み書きや計算などに一定時間集中させる練習など、スムーズに幼児教育から小学校教育へ移行させる取り組みがなされています。今回の体験入学もそうした一環でした。



2月28日（金）の授業参観と学級懇談、お世話になりました。来年度学年委員に内定された皆さん、よろしくお願いいたします。

さて、来年度5・6年の複式学級が編制されることは既にご存知かと思えます。今後の児童数の推移から、複式学級対応の方向性をお示ししました。要点は以下の3点です。

- ① 令和2年度の5・6年の複式学級は、非常勤講師の任用により、主な教科を解消して指導します。
- ② 令和3年度から始まる3・4年の複式学級編制に円滑に移行するため、令和2年度の3年生の教育課程を一部組み替えます。
- ③ やがて訪れる完全複式編制に対応するため、令和2年度の「1・2年」「3・4年」「5・6年」の連学年で、音楽・図工・家庭・体育の各教科を指導する場合があります。

トピック校長室⑫

「あの日のオルガン」真庭市上映会②

南屋旅館は建物が現存しており、1階は頭應商店になっています。また中井宿舎は、月田酒造（現在は営業していない）が所有していた民家を借りて宿舎にしたものでした。当時の建物は現存しています。植田宿舎は原美尾の植田さんの民家を借り上げて宿舎にしたものでした。現在は建て替えられて、当時の建物は現存していません。

中井宿舎で疎開生活をした当時6年生だった松岡秀朗さんの手記が残されていました。疎開中シラミに悩まされ、毎晩全員で下着の縫い目にいるシラミを爪が赤くなるまでつぶしていたそうです。ウサギの肉と大根の葉の炊き込みごはんは、初めての時はくさくて食べられなかったとか、また、毎朝の洗顔は裏の月田川でしていましたが、冬、雪の積もった日に石段を下って川で洗顔した時の冷たさと寒さは、強烈に覚えておられました。当時対岸には、祭場もあったようです。

「あの日のオルガン」は、地域に眠る貴重な歴史を知る思いがけない機会になりました。（おわり）